

私の父は八十九歳、母は八十七歳で、同じホームに入所している。先日、父が急性肺炎で入院した。姉と私の家族が交替で病院へ行くことにした。見舞いに行った私の手を握り、「来てくれたんか。考えてみると、ずいぶんみんなにお世話になったな。孫にも恵まれて、いろいろ楽しいこともさせてもらったな。おまえも仕事が大変だけど体に気をつけて生活してくれよ」と父は言った。

自宅に戻り、来ていた長男にこのことを話すと、「僕らこそじいちゃんにしてももらったことがたくさんあるのに」と、幼少期を回想したのであろうか、長男の目から涙が溢れた。それを見た私は、涙が流れ出すのを堪えきれなかった。このことは、私にとって父がどんな存在かを問われることとなった。

私は、幼少時から、頑固で気が短くて自分勝手な父を見て、「結婚してもこんな父親にはなるまい」と思っていた。そのことを妻に話したところ、「そっくりやで」の一言が即座に返ってきた。私にとつてはいちばん近くで生活しているものの、反論の余地もない、正直な一言であった。

父を批判、評論し、自分の事実に基づいている私が、父との対話や家族との対話の中で「私も」と知らされる事柄となった。自分で「私も」と思えるのではなく、あくまでも仏法を聞けた事実の中で、また周りの人間関係の中でそう気づかされるのではないか。

親鸞聖人の御生涯で、唯円房に対して「親鸞もこの不審ありつるに」と、また弁円に対しても「親鸞も」という同座の視点があるように思う。この同座の視点は、現在の社会問題において大切な視点なのではないか。いま一度、新聞を賑やかせている諸問題に対しても、ただ批評や評論に終わることなく、「私はどうだろうか」という同座の視点で見直してみてはどうか。

その後、父は無事退院し、施設に帰り、以前と変わることなく気ままに生活している。それを見て安心するのと同時に、父を批判や評論する日常がただいまの私である。

同座の視点を賜る



第32号
平成29年
(2017年)
7月・8月
・9月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

2017年 朝の法話(暁天講座)のご案内

本年度も当院にて朝の法話（暁天講座）を厳修いたします。三日間にわたり早朝から各講師に御法話いただきます。どうぞお誘い合わせの上、ご聴聞いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

- 7月25日（火）午前6時45分～8時
講師 譽田 和人 師(真宗大谷派研修部部長・奥羽教区浄應寺)
講題 「呼ばれてみれば」
 - 7月26日（水）午前6時45分～8時
講師 藤田 ジャクリーン 師(念仏者)
講題 「親鸞さまとのお出会い」
 - 7月27日（木）午前6時45分～8時
講師 飯山 等 師(大谷中高等学校校長・大垣教区西向寺住職)
講題 「念を法海に流す」
- ※三日間ともパンとコーヒーを用意してお待ちしております。

七月、九月の法座案内

- 宗祖を訪ねて**
- 七月三日（月）十四時～ 輪番
 - 八月三日（木）十四時～ 輪番
 - 九月三日（日）十四時～ 輪番
- 味読正信偈**
- 七月十三日（木）九時半～ 輪番
 - 九月十三日（水）九時半～ 輪番
- 歎異抄を読む**
- 八月二十三日（水）九時半～ 列座
- 暁天講座**
- 七月二十五日（火）六時四十五分～ 譽田 和人 師
 - 奥羽教区浄應寺
 - 「呼ばれてみれば」
- 七月二十六日（水）六時四十五分～ 念仏者 藤田 ジャクリーン 師
 - 「親鸞さまとのお出会い」
- 七月二十七日（木）六時四十五分～ 大垣教区西向寺住職 飯山 等 師
 - 「念を法海に流す。」
- 孟蘭盆会**
- 八月十三日（日）九時半～ 長浜教区即往寺住職 京極 眞了 師
 - 「忬度」
- 終了後、雑炊の集い
- 秋季彼岸会**
- 九月二十三日（土）九時半～ 本願寺派奈良教区教学寺住職 板橋宏憲 師
 - 「見えぬけれども 有るんだよ」

開教師候補研修



三月、四月にかけ、北米開教師を目指す研修生が来院した。アメリカ出身の豊島ステイブ氏が別院で生活され、晨朝勤行から閉門まで、寺院での生活を体験し、花まつりなど各種行事にも参加した。

〈結婚式〉



三月二十九日
高木 祐介さん
朋子さん

結婚式予約状況

- (二〇一七年)
- ☆ 九月九日 鷲尾・秋津家
 - ☆ 九月十六日 植田・平等家
 - ☆ 十月八日 某家
 - ☆ 十月十五日 某家
 - ☆ 十二月二日 某家
 - (二〇一八年)
 - ☆ 三月十七日 某家
- なお、予約の詳細はHPで公開中です。

へ列座のつづき

境内地建物の解体・二度目の年度替わり・各種行事等、目まぐるしく日々が過ぎていくように感じています。

そんな中、五月には三日講聖蹟参拝旅行に随行しました。新幹線が遅延してしまい、しんどい思いをしたことも含めて、良い経験をしたと思っています。

旅行をすると得難い経験をしたのだと思ってしまうのですが、ほんとうは日々出会うものも難しいものなのだろうと思ひ返すこともあります。

暑い日が続けば「暑くてかなわん」と言い、寒い日が続けば「寒くてかなわん」と言う。厄介な仕事が続けば「忙しくて嫌になる」と言う。毎日ですが、そこにはほんとうは「自分が（は）」という思いが先に立って言葉が出ていることを忘れてしまっている気がします。

暑さも寒さも忙しさも、そのまま受け止めることができずに、また今日も「自分が」だけで生きていこうとしています。

(近藤)

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派(東本願寺)

岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町
26番地

電話・FAX 075-771-2921

http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com

春の彼岸会法要



三月二十三日、当院にて春の彼岸会法要が厳修された。滋賀県樹洩陽舎舎幹の栖雲深泥師に「罪惡深重、煩惱熾盛の衆生」の講題で御法話頂いた。終了後は、五十名の参詣者にお斎が配られた。

岡崎別院おみがき



三月二十一日、春の彼岸会法要に向けて、仏具のおみがきが行われた。薬品で磨く人、新聞や布で仕上げていく人に分かれ、作業が進められた。最後に、別院職員による特別製カレーを全員でいただいた。

都草による境内清掃奉仕



京都観光文化を考える会（都草）による清掃奉仕が行われ、境内庭園の清掃が行われ、約三十名が参加された。清掃作業後、輪番が別院の沿革史を説明した。

二〇一七年

暁天講座

本年度も七月二十五日～二十七日までの三日間、朝の法話（暁天講座）を開催します。日時・講師などは、前ページに記載したとおりです。
昨年度は三日間ともに一〇〇名前後の方に参詣をいただきました。
参詣された方にはパンとコーヒーを用意しています。
暑くなる季節の開催となりますが、昨年同様、多くの方の御参詣をお待ちしております。

二〇一六年暁天講座の様子



親鸞WEEK

四月二日～八日にかけて、親鸞WEEKが行われた。
二日は子ども会・花まつりが開催され、花まつりの後、書院にてたこ焼きを行い、参加者、別院職員全員でたこ焼きを作り、いただいた。
三日十四時より新潟県往生人舎の今泉温資師の宗史蹟公開講座が開かれ、「越後の親鸞聖人」という題のお話を、約五十人が聴聞した。
同じく三日夜には「お寺で宇宙学」が開かれ、京都大学教授柴田一成氏と岡崎別院輪番が交互に宇宙にまつわる話を行い、約三十名が参加し、終了後の座談会では参加者が夜遅くまで座談を繰り広げた。
五日・六日には別院本堂を会場として「書と絵画展」が開かれた。五日には日本画家畠中光亨氏によるギャラリートークが開かれた。
八日には地域の飲食店組合など各団体の協力のもと、オカザキプレイが開催された。本堂御拝付近を舞台として岡崎別院雅楽会、地域の有志や学生たち、プロのミュージシャンによる演奏などのほか、さまざまな屋台やワークショップが出店された。



飲食店の出店



ワークショップ



仏青による出店



オカザキプレイ



お寺で宇宙学



花まつり



本堂での演奏



岡崎別院雅楽会



ギャラリートーク



今泉師の公開講座

岡崎別院三日講 聖蹟参拝旅行

五月十日～十一日にかけて、三日講聖蹟参拝旅行が行われた。三日講員有志が参加し、列座が随行した。

主な旅程は次の通り

五月十日
京都↓八代↓山江村民族資料館↓樂行寺↓人吉
五月十一日
人吉↓花尾念仏洞↓願立寺↓鹿児島別院↓指宿
五月十二日
指宿↓立山かくれ洞↓ミュージアム知覧↓知覧特攻平和会館↓京都



岡崎別院整備委員会

設立のお知らせ

借家跡地



学舎跡地



五月九日の院議会において、「岡崎別院整備委員会」が設立された。専修学院学舎並びに借家の解体が本年四月初めに完了しました。今後、跡地の活用並びに老朽化施設の修復、別院の将来に向けた護持運営についての方途を協議していきます。
*現在の別院境内地に、ては、専修学院学舎跡地について、解体後に土壌改良工事を行うことができます。解体工事の跡地は、駐車場の拡張、トイレの増設、駐車の駐車をいたします。ご了承ください。

Teraschool

開催のお知らせ

岡崎別院にて子供向け学習・体験教室「テラスクール」が開催となる運びとなりました。NPO法人、真宗大谷派企画調整局と協議し、夏休みの宿題に関する子供向け教室などを開催する予定です。詳細は決定次第HPなどでお知らせします。

テラスクールについては「

<http://www.teraschool.jp/>